

釧路湿原自然再生協議会
第 15 回再生普及小委員会
議事要旨

平成 22 年 5 月 28 日開催

■ **再生普及行動計画ワーキンググループの経過報告について**

事務局より再生普及行動計画ワーキンググループの経過報告が行われた。内容は、昨年度のワンダグリンダプロジェクト 2009 の活動報告と、今年度の取り組み予定を中心に説明がなされた。その後委員による意見交換と検討が行われた。

高橋委員長

- 2009 年度ワンダグリンダプロジェクトの活動報告は 2005 年度に始まってから 5 年目（第 1 期）にあたり、2010 年からは第 2 期目を迎える。そのため 2009 年度の報告書は過去 5 年間の推移等も併せて取りまとめた。
- 再生普及小委員会は、他の小委員会毎の活動や情報発信したい事項等を紹介するという役目があると思われる。そのため今年度は森林再生小委員会での取組を中心に、HP 上にわかりやすい自然再生紹介ページを事務局で作成することや、地元広報や各種イベント時での PR など、一般の人や地元の人向けに自然再生事業に関する情報発信を行っていく。

渡辺委員

- HP 上で、各小委員会の活動や自然再生事業をよりわかりやすく紹介していく予定ということだが、各小委員会のサイトはあるのか？

中島(章)委員

- 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターでは、HP 上で雷別地区の自然再生事業の紹介やイベントの広報、森林再生小委員会の動向も掲載している。

菊地委員

- いま市町村ではこのメディア部分というのが財政関係で見直しが入っている。釧路市では、広報誌の予算が見直され、今年の 4 月からページ数がこれまでの 3 分の 2 になった。イベントや環境教育、普及啓発活動という部分が削除されることになり、自然再生の情報を掲載することが苦しい状況である。

中島(吾)委員

- 標茶町では今後、自然再生協議会の活動を掲載していくことと、毎年開催している産業まつりで、ブースを設置しパネル展示などをしていくことを進めているところである。

伊藤委員

- 伊藤サンクチュアリでは、広報としてHPや通信誌、チラシの配布など行っているが、力不足な面があり、昨年はタンチョウを見ながらのコンサートという企画でなかなか参加者が集まらなかった。鶴居村を中心に広報を行ったが、もっと他の地域にも働きかけたらよかったと思った。

清水委員

- 現在配信されているワンダグリンダニュースを、行政や他の団体も活用すれば良いのではと考える。

高橋委員長

- 情報発信をする時に、受け手の側から発信者へ感想や意見などの反応をすぐに寄せるという部分の双方向の情報発信ということが検討課題かと考える

渡辺委員

- 例えば自然再生事業の紹介する中で、この様なことを行っただとか、こういう風に頑張っている等書いても、受け手としては上手く進んでいるならいいじゃないかと考え、それ以上の意見は出てこない。しかし、上手く進んでいないことや何が出来ていないかをHPなどにきちんと書いておくと、もっとちゃんとしろとか、その部分であれば自分達だったらこんなことが手伝えるなど反応が返ってくると思う。受け手から意見が出てくるようなプッシュをしていく事が大事だと思う。

■ 環境教育ワーキンググループの経過報告について

事務局より環境教育ワーキンググループの経過報告が行われた。内容は、昨年度の取り組み報告と、今年度の取り組み予定を中心に説明がなされた。その後委員による意見交換と検討が行われた。

高橋委員長

- 環境教育ワーキンググループの今年度の取組の主なものとして、総合学習の時間が減少するなかで、理科や社会等の教科学習で釧路湿原を用いた環境教育がどのようにできるかを検討すること、また教員向けの研修会を2回実施する予定にしている。

瀬川委員

- 標茶高校は敷地も広く山や自然も多く、自然や湿原をテーマとした授業が出来るフィールドがある。自分は自然がないと授業ができないと考えてしまうほど、標茶高校は環境に恵まれている。

高橋委員長

- 授業の中で環境教育をしたいと思った時に、自分は自然に対する専門知識が少ないと考える先生は多いようだ。その先生達が専門知識を持つ人と繋がりができる環境を作るための手助けをしたりする取り組みを今年度続けていきたいと考えている。

矢吹委員

- 酪農学園大学の生命科学学科では、洞爺湖に関する環境教育を行っており、それを活かす形で、洞爺湖について学んだ学生が、道外から洞爺湖に来た修学旅行生に、洞爺湖の自然を紹介するという取り組みをしている。釧路湿原でも知床・釧路湿原実習という実習科目の中で学生が現地で学ぶ機会もある。
- 地元の北海道教育大学釧路校と連携するような形で何か出来ればチャレンジしてみたい。

高橋委員長

- 環境教育 WG には教育大学釧路校のメンバーもおり、環境教育を担う課があるのでそこに働きかけると積極的に繋がれると思う。

近藤委員

- 以前に前身の WG で釧路湿原をテーマにした学校の環境教育のための冊子を作って各学校に配布したことがあったが、もう一度出したら良いと思う。

渡会委員

- 釧路湿原流域というのは、GIS やリモートセンシングの試験地などとしては、データ量が日本一だと感じる。膨大なデータが整備されているがなかなか活かされていない。環境教育に使える資料もあり、昔のデータも掘り起こし活用していくことも手だと考える。

久保田委員

- ワンダグリンドの参加団体数は年々増えているが、集まった情報の発信先が限定されていてもっと大量に情報が届くような状況を作り出したいと思っている。
自然再生事業自体の報道が減ってきており、関心が薄れてきているのでは無いかと危惧している。HP 等での情報発信戦略を協議会で議論する事が必要な時期に来ているのでは無いだろうかと感じている。

小松委員

- 最近感じている事は、湿原に行くとゴミが非常に多いということであり、環境教育でいかに湿原の保全が必要だということを、同業者の方々と協力して実施していきたいと思っている。具体的にはどのような事が良いのかは判らないが、少しでも役立つような活動をしていきたいと思っている。